

技術伝承は安全伝承である



宇部興産株式会社 常務執行役員 三隅 淳一
Junichi Misumi

全社の安全に係わる部署の担当になって1年以上が経過したが、自分自身が長らく生産現場に携わってきた経験に基づく偏った見方をせず、少し鳥瞰的な視点から意見を述べるように心掛けている。

どの産業分野にも言えるが、少し前に2007年問題が提起され、団塊の世代の大量定年が、特に技術伝承において危惧された。その後の制度改定により、程度は異なるが、概ね65才まで定年が延長されている。更に世界の経済変化は2008年のリーマンショック、BRICs諸国の台頭と減速等、今なお景気の不透明さは継続している。ものづくりの現場、特に日本では大規模プラントの停止、小規模機能製品への移行が進みつつある。団塊の世代は生まれた3年間はピークであったため、問題提起から8年後の今年でほとんどの人達が定年を迎え、会社を去っているのではないだろうか。従来型のプラントでは伝承は確実に終わったか、新型プラントでは原理原則を徹底して安全が担保されているか、この8年間でそれらの総括ができただろうか。くしくもこの間に国内の大規模プラントで、大事故が連続して起こり、又、新型プラントでも取扱いの原理原則が不明な工事で命が奪われる事故も発生している。

化学設備は危険物や高圧ガスを取扱うリスクの高い設備である。教育・訓練された人材で管理・運営を行わなければならない。団塊の世代は日本の化学産業の成長期に活躍された人達であり、初期の原理原則の教育・訓練のみならず、その後の様々な経験を通じ管理の改善を進め、化学産業の発展に寄与してきた。非定常作業、スタートアップ、シャットダウン等での不安定な状態を判断し適正な処置をするのは容易ではないはずである。彼らは多くのトラブル経験から運転操作、設備設計・保全等の各部門の有用な知見を蓄積し、その結果安全性向上へと繋がっていくことを実感してきた。さらに事故が起こっても最小限に抑える対策を確立する等、化学プラントに安全・防災に関する原理原則を徹底し且つ進歩させた。それゆえ現在の我々が伝承すべきは、個々の基礎技術の習得、ITの活用は勿論だが、同時にリスクを感知したり、安全の原理原則を色々な管理の場面で行動に組み込んでいく徹底した姿勢と意欲ではないだろうか。事故は絶対起こさないと信念の基、技術の要は危険な状態を予め徹底的に検討し対策を講じ、想定事故の被害を極小化するという安全第一の思想であることを伝承していかねばと感じている。

公益財団法人総合安全工学研究所 役員

理事長 田村 昌三 東京大学名誉教授
(代表理事)
専務理事 小川 輝 繁 横浜国立大学名誉教授
(執行理事)
常務理事 福 富 洋 志 横浜国立大学大学院
工学研究院長・教授
理事 篠原 一彦 東京工科大学教授
理事 都 筑 正 和 東京大学名誉教授
理事 高木 伸夫 (有)システム安全研究所所長

理事 花岡 一雄 東京大学名誉教授
JR 東京総合病院名誉院長
理事 丸山 修 住友化学(株)執行役員
理事 三宅 淳 巳 横浜国立大学大学院教授
理事 安原 洋 東京大学医学部付属病院教授
理事 若倉 正 英 (独)産業技術総合研究所客員研究員
(特非)安全工学保安力向上センター長
監事 田中 保 正 元(一社)日本芳香族工業会専務理事
監事 向 殿 政 男 明治大学名誉教授